水稲の品種転換や栽培技術支援による品質の向上

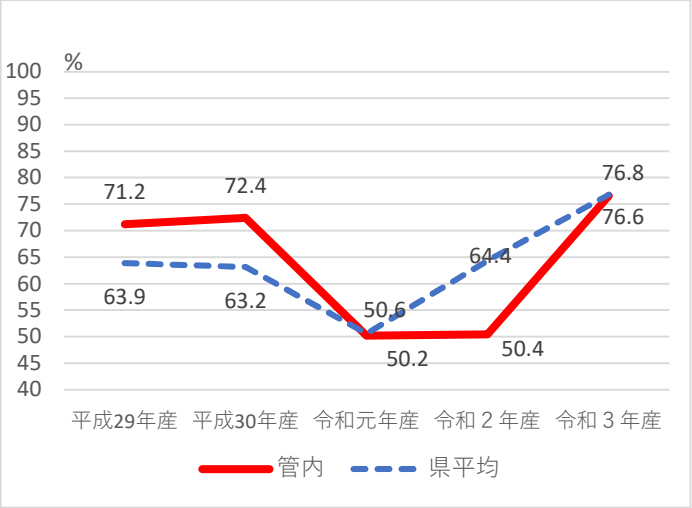
対象者　管内水稲生産者群

【普及活動のねらい】

当管内では、近年、主要品種である「コシヒカリ」「キヌヒカリ」の品質低下や、「日本晴」の年次による品質の差が大きいことが課題となっています。

また、令和元～3 年度の水稲 1 等米比率が県平均を下回ったことなど、品質向上に向けた支援が強く望まれています。

そこで、「コシヒカリ」の品質向上や、「キヌヒカリ」「日本晴」から高温耐性品種である「みずかがみ」「きぬむすめ」への品種転換に向けた支援を行いました。



１等米比率の推移

【普及活動の内容】

現地研修会の開催、情報の提供

JA と連携し、「みずかがみ」「コシヒカリ」栽培者を対象に、管内 3 か所で現地研修会を開催しました。水管理や穂肥施用、病害虫防除対策を中心に、基本技術の励行を呼びかけました。

また、「きぬむすめ」の穂肥施用に関する情報提供や、今年は、斑点米カメムシやいもち病による被害拡大が懸念されたため、適期防除に向けた 2 回の緊急情報を発信しました。

穂肥時期の現地研修会の様子

「きぬむすめ」の実証ほの設置

次年度、「日本晴」から「きぬむすめ」に品種転換される集落営農法人のリーダーのほ場で、「きぬむすめ」の実証ほを設置しました。リーダーとほ場巡回を行い、生育経過の画像や生育調査の結果から、栽培管理について検討を行いました。

【普及活動の成果】

現地研修会や迅速な情報の提供により、栽培管理や病害虫防除が適切に実施された結果、管内の 1 等米比率は 72.4%（12 月現在）と、県平均の 65.7%を上回りました。

また、「きぬむすめ」の実証ほは、10a あたり収量が 553kg となり、日本晴（集落営農法人平均）の 420kg に比べ、大きく増収しました。

引き続き JA と連携し、水稲の 1 等米比率向上に向けての活動を展開していきます。